第２期　駒ヶ根市総合戦略【概要】

計画期間：令和3年度～令和6年度

１．基本的な考え方

❶「総合戦略」は、まち・ひと・しごと創生法に定められた計画で、「人口ビジョン」に示す駒ヶ根市の人口の現状と将来の姿を踏まえ、人口減少を克服し将来にわたって活力ある駒ヶ根市を実現するために策定するものです。

❷総合計画の取組をさらに進め、「人口減少の抑制」と「人口減少を踏まえた地域社会の維持・活性化」に向けた施策の具現化を進めるものとして策定します。

❸第２期総合戦略の計画期間は、令和３年度から令和６年度までの４年間とします。

２．人口ビジョン

❶駒ヶ根市の人口は、2008（平成20）年をピークに減少に転じています。

❷産業振興や雇用創出施策をすすめるとともに、恵まれた地域資源を活かした魅力ある地域づくりを進めることで駒ヶ根市に新しいひとの流れをつくり、人口減少に歯止めをかけていきます。

❸少子化対策を進め、2060年に27,000人程度の人口を維持することを目指します。

３．施策展開の基本方針

❶当市の強みを活かした施策展開

ふたつのアルプスなど美しく豊かな自然、優れた観光資源、高速交通整備による将来性等、恵まれた資源や優れた特性を強みとして施策に活かしていきます。

❷地域間・地域内の連携推進

上伊那地域や伊那谷などとの地域内連携、同じ特性や資源を活かした地域間連携（地域を越えた連携）を進めます。

❸まち・ひと・しごと創生「政策５原則」

地方創生における政策５原則（①自立性②将来性③地域性④総合性⑤結果重視）に基づき施策の展開を図ります。

❹持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の推進

総合戦略の施策とＳＤＧｓを関連付けることにより、政策課題の明確化や政策推進の全体最適化を目指します。

❺「新しい生活様式」への対応

感染症克服と経済活性化の両立のため、ＤＸ※推進の取組のほか、地方移住への関心の高まりを「ひと・しごとの流れ」につなげます。

４．政策の体系（４つの基本目標と方向性）

基本目標１　しごと

稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする

（1）地域特性を活かした「稼げるまちづくり」の推進	①企業誘致による雇用の場の確保 ②起業・事業継続の推進 ③６次産業化・農商工連携の推進 ④スマート農林業の推進 ⑤地域資源再発見・KOMAGANEブランド確立
（2）地域資源を活かした観光施策の推進	①観光地域づくりの推進 ②駒ヶ根高原再整備の推進 ③中ア国定公園化を活かした山岳観光 ④リニアバレー構想実現に向けた取組
（3）若者・女性などの地元就職を促進する雇用環境の充実	①若者・女性にやりがいのある仕事づくり ②多様な働き方の実現と働き方改革の推進 ③復職支援策の充実

【数値目標】●従業者数　18,238人(H27)　⇒　19,100人　※経済センサスより

基本目標２　ひとの流れ

地域外とのつながりを築き、駒ヶ根市への新しいひとの流れをつくる

（1）移住・定住・Ｕターン施策の推進	①官民連携による移住・定住促進 ②全世代・全員活躍型 生涯活躍のまちづくり ③地域おこし協力隊等の人材活用 ④新規就農・農地取得の支援 ⑤地域を支える人材の育成
（2）関係人口の創出・拡大	①二地域居住・長期滞在の推進 ②ふるさと納税等による駒ヶ根のファンづくり ③企業版ふるさと納税の活用 ④地域外企業等との連携

【数値目標】●社会動態の増加数　４年間で80人増加（年平均20人増加）

基本目標３　結婚・出産・子育て

結婚・出産・子育ての希望をかなえる

（1）結婚、出産から子育てまで切れ目のない支援の充実	①出会い・結婚支援 ②妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援 ③復職支援策の充実（再掲）
（2）教育環境の充実と人材育成	①学校ICT（GIGAスクール）推進 ②新学習指導要領への対応 ③キャリア教育・ふるさと教育の推進 ④学校・地域・家庭の連携

【数値目標】●合計特殊出生率　1.65(R1)　⇒　1.89　●年間出生数　236人(R1)　⇒　260人

基本目標４　まちづくり

ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な駒ヶ根市をつくる

（1）誰もが安心していきいき暮らせる魅力ある地域づくりの推進	①全世代・全員活躍型　生涯活躍のまちづくり（再掲） ②地域医療体制の充実と健康づくり推進 ③多世代交流・見守り支援 ④文化・スポーツを活かしたまちづくり ⑤多文化共生の推進
（2）持続可能なｺﾝﾊﾟｸﾄｼﾃｨ・ﾌﾟﾗｽ・ﾈｯﾄﾜｰｸ※1のまちづくり	①中心市街地の再生 ②居住誘導区域への定住促進 ③小さな拠点づくり ④地域公共交通の維持・再構築 ⑤公共施設マネジメントの推進
（3）未来技術を活用した「Society5.0※2」「ｽﾏｰﾄｼﾃｨ」の実現とＤＸ※3推進	①行政ICT・防災ICTの推進 ②教育・医療・産業分野等での未来技術活用

【数値目標】●これからも駒ヶ根市に住み続けたい人の割合　86.1%(R1) ⇒ 88%　※市民満足度調査より

５．重点プロジェクト

プロジェクト１

高原観光×ＩＣＴ

駒ヶ根高原エリアにおいてAI、IoT、Local5G、MaaS※4、キャッシュレス決済などデジタル技術や新技術の活用に実証的に取り組み、観光客や地域住民の利便性の向上を図ります。

【主な事業】
■高原ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ具現化事業
■デジタル化推進事業　など

プロジェクト２

生涯活躍のまち × 中心市街地活性化

「ごちゃまぜの拠点づくり」「学びと交流の場づくり」に向け、駒ヶ根版生涯活躍のまち構想を具現化し、中心市街地の再興につなげていきます。

【主な事業】
■市街地再生推進事業　■生涯活躍のまち推進事業　■高校と連携した人材育成事業
■移住交流促進事業　■健康増進事業など

プロジェクト３

少子化対策×健康資源

地域の資源である看護大学や医療機関などと連携し、健康・医療分野におけるデジタル化の取組を進めます。リモートワークの普及や女性の働く場の多様化を図り、子どもを産み育てやすい環境整備を推進します。

【主な事業】
■テレワーク推進事業　■デジタル化推進事業　■健康増進事業　■各種子育て支援事業　■少子化対策事業　など

【用語の説明】
※1 ｺﾝﾊﾟｸﾄｼﾃｨ・ﾌﾟﾗｽ・ﾈｯﾄﾜｰｸ…人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること
※2 Society5.0…サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会
※3 ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）…「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念
※4 MaaS（Mobility as a Service）…ICTを活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念